

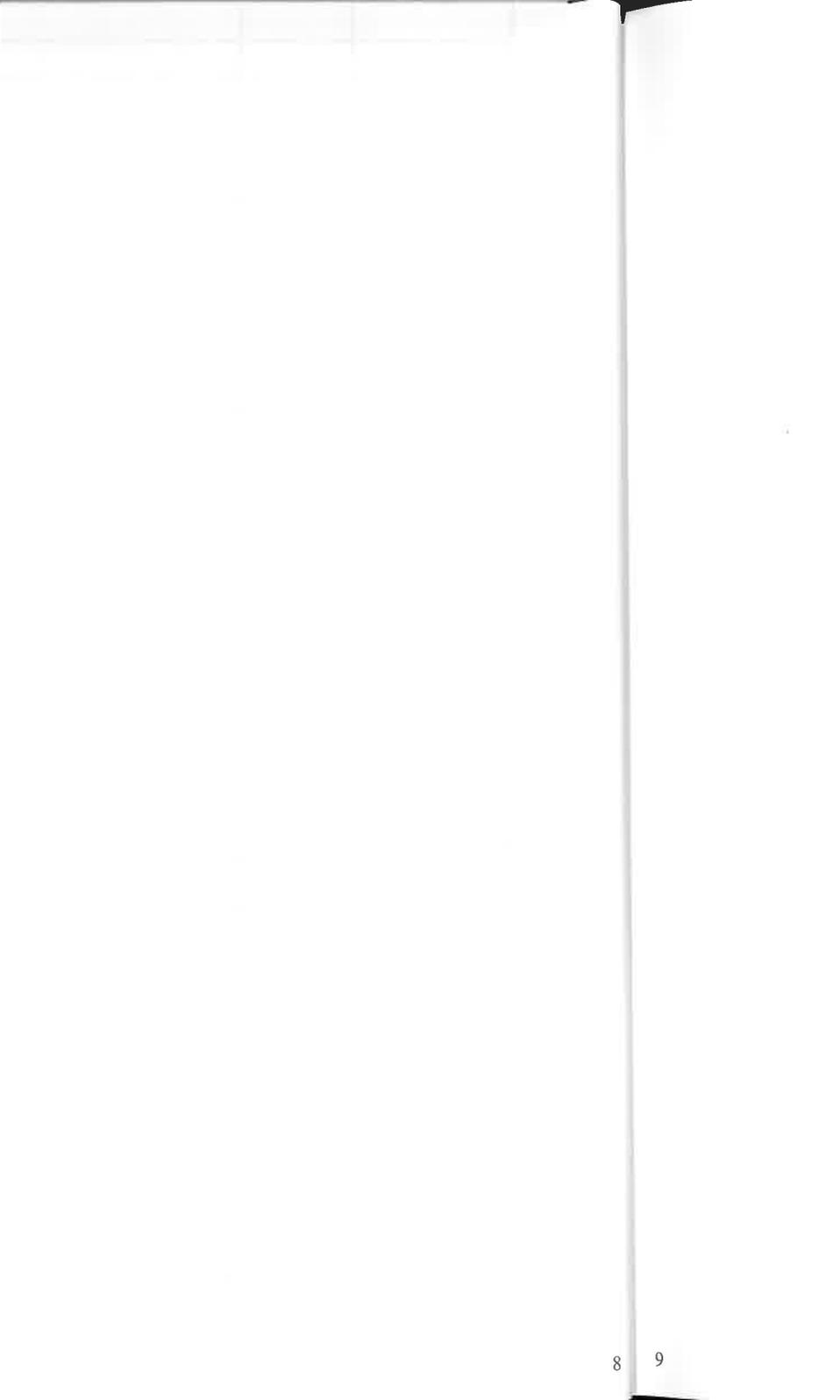
平等院
雲中供養菩薩

Byodoin
Bosatsu on Clouds





































p.1 南 17 号 south 17 h. 72.1 cm	p.13 北 17 号 north 17 h. 65.3 cm	p.22, p.23 南 22 号* south 22 h. 71.2 cm	p.32 北 20 号 north 20 h. 77.3 cm	p.40 上 : 北 11 号* upper : north 11 h. 62.4 cm	p.44 上 : 北 2 号 upper : north 2 h. 56.7 cm	p.49 上 : 南 7 号* upper : south 7 h. 57.9 cm
p.2 北 25 号 north 25 h. 61.5 cm	p.14 南 25 号 south 25 h. 69.0 cm	p.24 南 10 号 south 10 h. 60.9 cm	p.33 北 26 号* north 26 h. 62.0 cm	下 : 北 16 号* lower : north 16 h. 55.4 cm	下 : 北 3 号* lower : north 3 h. 59.4 cm	下 : 南 16 号 lower : south 16 h. 60.4 cm
p.3 南 20 号 south 20 h. 77.3 cm	p.15 南 4 号 south 4 h. 60.6 cm	p.25 南 5 号 south 5 h. 62.4 cm	p.36 北 9 号 north 9 h. 74.4 cm	p.41 上 : 北 15 号* upper : north 15 h. 66.7 cm	p.45 南 1 号 south 1 h. 62.1 cm	p.50 上 : 南 15 号* upper : south 15 h. 58.8 cm
p.4, p.5 南 3 号 south 3 h. 62.7 cm	p.16, p.17 北 7 号 north 7 h. 62.4 cm	p.26 北 18 号* north 18 h. 57.6 cm	p.37 北 23 号* north 23 h. 72.6 cm	下 : 北 24 号* lower : north 24 h. 61.5 cm	p.46 南 8 号 south 8 h. 57.0 cm	下 : 南 6 号 lower : south 6 h. 56.7 cm
p.6, p.7 南 12 号 south 12 h. 50.9 cm	p.18 北 10 号* north 10 h. 87.0 cm	p.27 北 19 号 north 19 h. 55.0 cm	p.38 北 1 号 north 1 h. 69.7 cm	p.42 上 : 北 21 号* upper : north 21 h. 50.6 cm	p.47 南 14 号 south 14 h. 62.3 cm	p.51 上 : 南 19 号* upper : south 19 h. 68.5 cm
p.8, p.9 南 23 号 south 23 h. 59.4 cm	p.19 南 18 号* south 18 h. 77.3 cm	p.28 南 2 号 south 2 h. 56.7 cm	p.39 上 : 北 4 号* upper : north 4 h. 53.9 cm	下 : 北 14 号* lower : north 14 h. 53.0 cm	p.48 上 : 南 11 号* upper : south 11 h. 70.1 cm	下 : 南 26 号 lower : south 26 h. 60.9 cm
p.10, p.11 南 24 号 south 24 h. 62.4 cm	p.20 北 22 号* north 22 h. 72.6 cm	p.29 南 13 号 south 13 h. 50.5 cm	下 : 北 8 号* lower : north 8 h. 61.8 cm	p.43 上 : 北 13 号 upper : north 13 h. 71.1 cm	下 : 南 9 号* lower : south 9 h. 51.1 cm	
p.12 南 21 号 south 21 h. 61.2 cm	p.21 北 12 号* north 12 h. 57.6 cm	p.30, p.31 北 6 号 north 6 h. 54.5 cm		下 : 北 5 号 lower : north 5 h. 40.4 cm		

* = © 平等院, 1999 / 株式会社 PFU,

平等院 国宝雲中供養菩薩

平成 27 年 12 月第 5 刷

発行 平等院

解説 岩佐光晴

撮影 寿福滋 城野誠治 (株)PFU 神居文彰

デザイン 北川一成 (グラフ株式会社)

印刷 / 製本 グラフ株式会社

Bosatsu on Clouds

Fifth edition, December 2015

Published by Byodoin Temple

Expositioned by Iwasa Mituharu

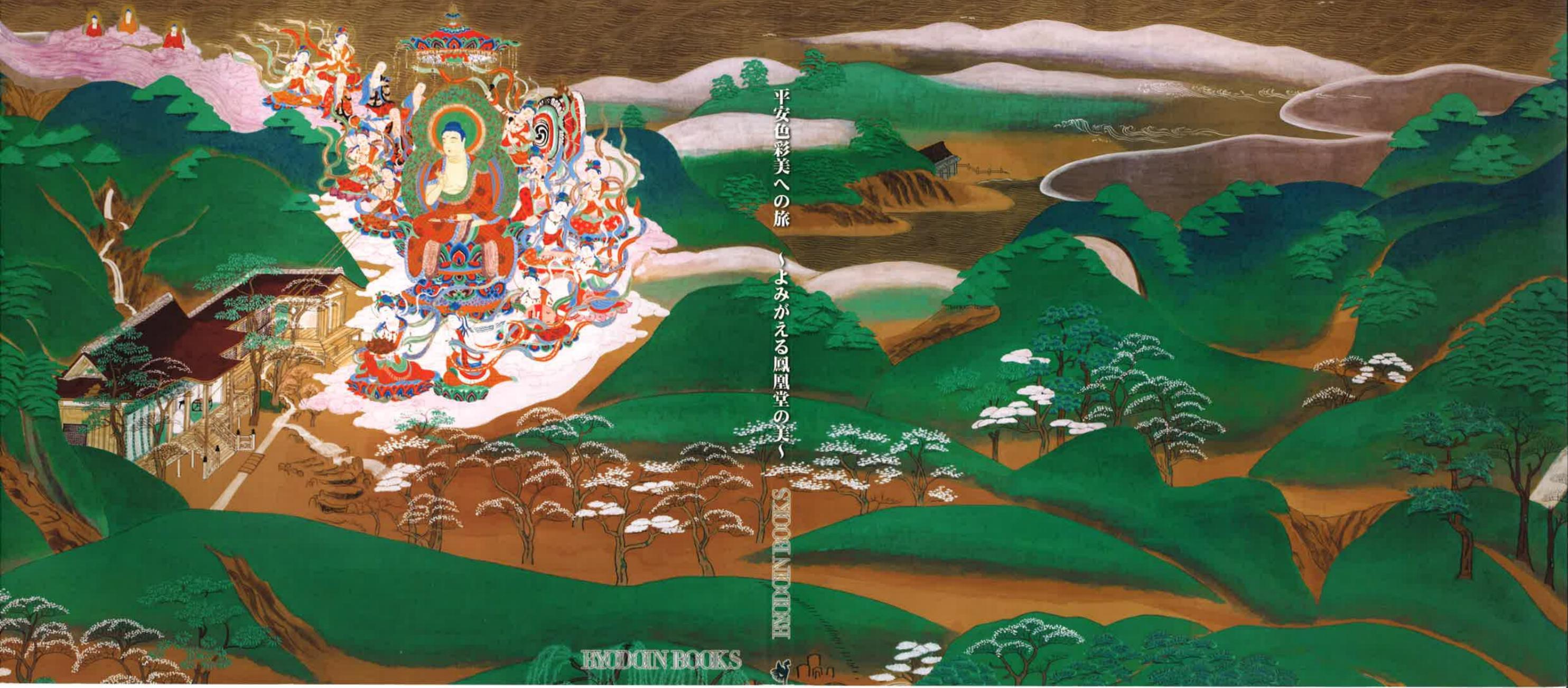
Photograph by Jufuku Shigeru, Shirono Seiji, P.F.U., Inc., Kamii Monsho

Designed by Issay Kitagawa (GRAPH Co. Ltd.)

Printing & Bookbind by GRAPH Co. Ltd.

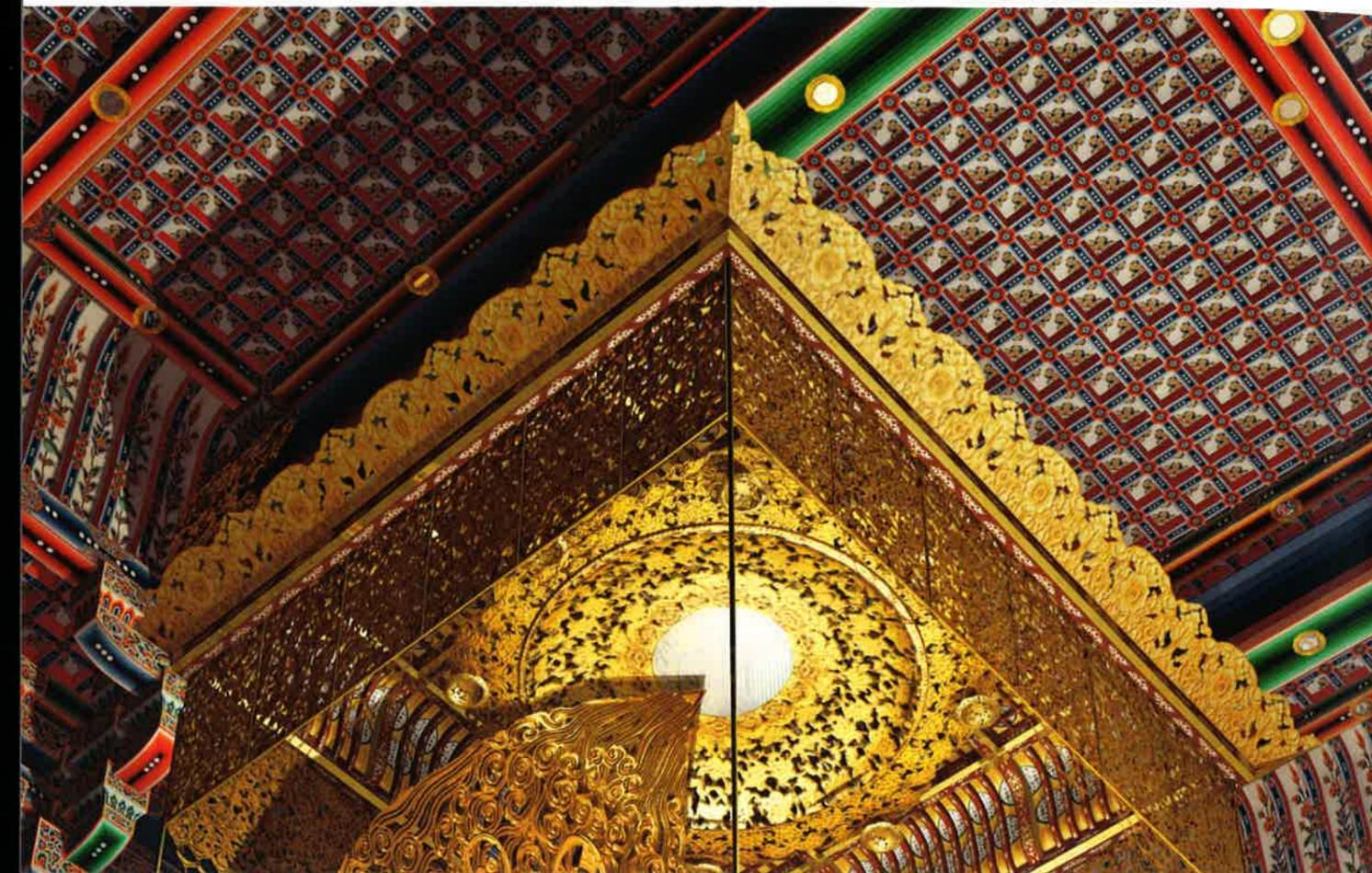


平安色彩美への旅 ～よみがえる鳳凰堂の美～

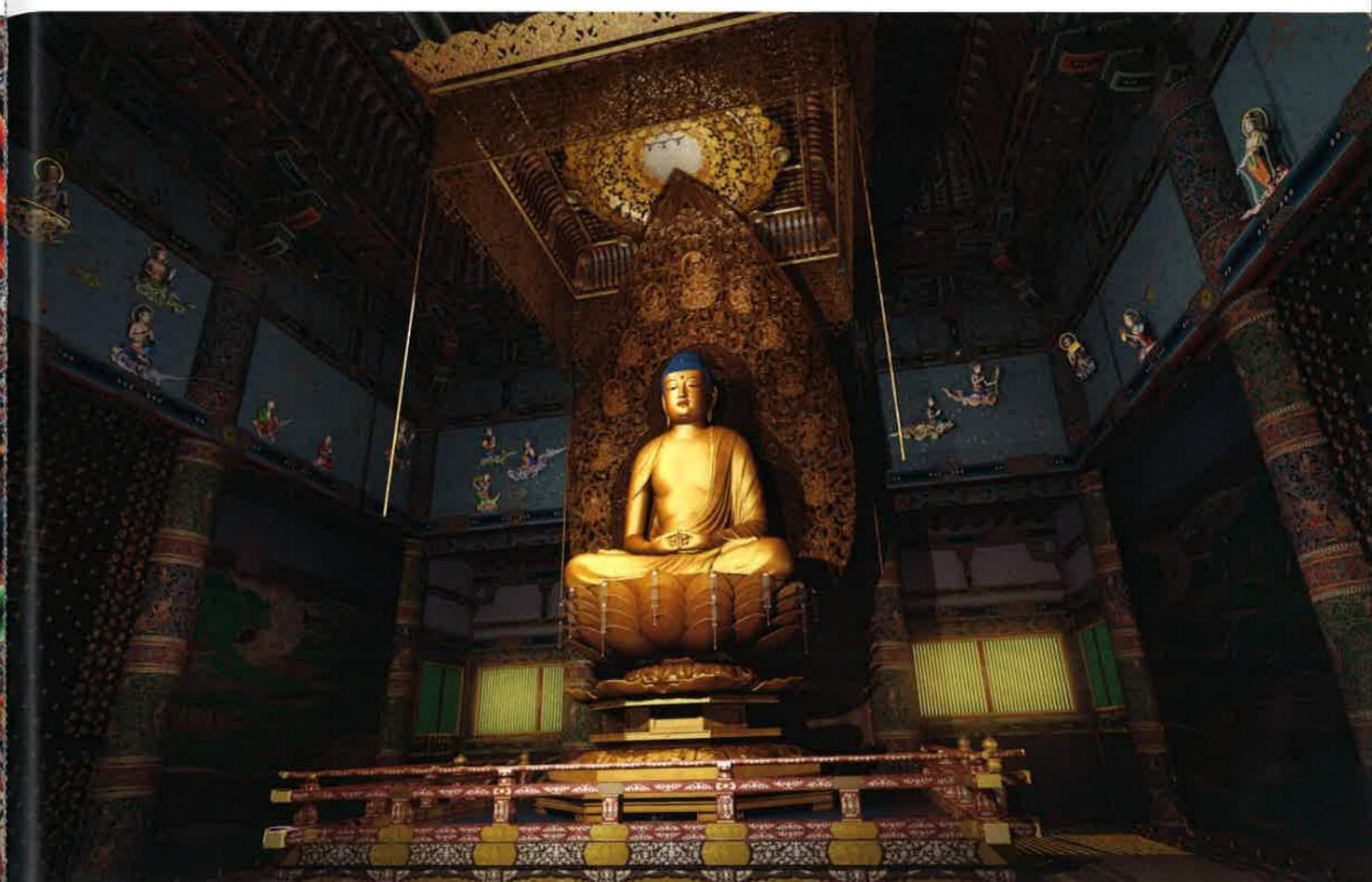


平安色彩美への旅
～よみがえる鳳凰堂の美～

HYODOIN BOOKS



二重天蓋と鳳凰堂中堂折上格天井



創建期中堂内部の復元
当初、西側には連子窓があり
ました。
青色と赤色が象徴的に用い
られ、ガラス、鏡、螺鈿、金色と
いう異なる反射と透過性、濃
密で伸びやかな彩色により複
雑で落ち着いた空間がつけら
れたのです。





12世紀中頃の平等院 法花堂之路から法花堂と五大堂

- I
成楽院南大路
- H
成楽院東大路
- G
小河大路
- F
大和大路
- E
参道
- D
閑道
- C
五大堂之路
- B
法花(華)堂之路
- A
野路
- 31
墓地
- 30
大鳥居
- 29
宇治津
- 28
西殿
- 27
小松殿



釣殿



12世紀中頃の平等院(北大門から)

- 26
小川殿
- 25
本僧坊
- 24
僧坊
- 23
倉庫群
- 22
鎮守森
- 21
花園
- 20
南泉坊
- 19
宝塔
- 18
棧敷屋
- 17
宝蔵(経蔵)
- 16
大湯屋
- 15
不動堂
- 14
西大門
- 13
法華堂
- 12
五大堂
- 11
愛染堂
- 10
脇門
- 9
北大門
- 8
鐘楼
- 7
北廊
- 6
西廊
- 5
懺法堂
- 4
釣堂
- 3
本堂
- 2
小御所
- 1
鳳凰堂(阿弥陀堂)



平安時代に最も近い姿に復元修理された鳳凰堂 夜景全景(実写)

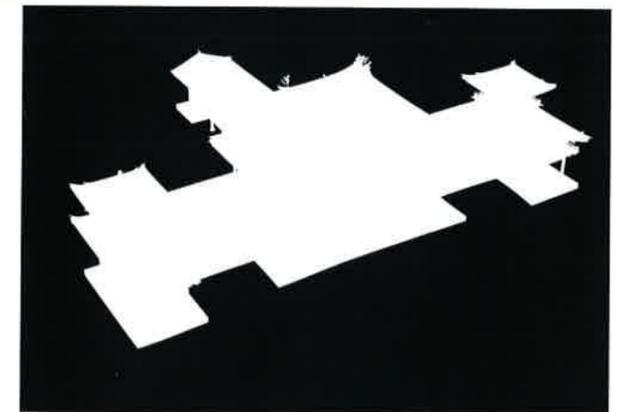




尾廊からの景観(上：西北／左：西南から)



左：32本の植毛を施し、2種の鍍金をした鳳凰(イメージ)



尾廊を含む上空からのテクスチャ



自然と極彩色の調和へ

頼通は、いったい何を明らかにしたのでしょう。物を見るといふ視点から感じる統覚の解放。

末法という時代では、人が誰しも望む救済が非常に難しくなるとされました。自分が救われる道がなくなるといふことは、終末思想以上の恐怖です。人々は、真剣に救いをもとめ、当然、今の命のありようをも凝視しました。それが浄土教であり、供養としての「美」が求められた時期でもあります。

この御堂の中心には定朝作と唯一確定される阿弥陀如来が安置されています。堂内の荘嚴は、それ以前の唐様から変化した和様の極地ともいえる表現で飾り尽くされています。

その仏・菩薩・絵画・荘嚴、全てが来迎という一つの切実な願いで貫かれていることも事実です。それは堂内だけでなく、建造物全体・庭園にまで及ぶ考えです。

平等院について、「浄土をこの世に現出すべく頼通によって建立された」と説明される向きがありますが、実際の頼通の記録でそういった発言は見あたりません。

限りなく自己の「いのちの表現」の希求と、為政者としての頼通が「救済の敷衍」を實現した平等院の美。

自然と人の手による造形美の積層こそ平等院ではないでしょうか。



中堂内部(東南から本尊を見る)



中堂内部東面(格子なし 小壁散華あり)



方蓋と円蓋さらに厚さ2cm程の垂板という複雑な組み合わせ(実写)

彩色に用いられた顔料は、赤色系に朱(硫化水銀)を多用し、ベンガラ(酸化鉄)、丹(鉛)を部位にあわせて使い分け、現在黄土として残る部分は、藍を使用した代用群青と考えられますが、実際の黄色を出す部分には黄土、藤黄を使用したと考えられます。寒色系には群青、藍。緑色は緑青、紫色には白色鉛化合物と紫染料との混合で大変高価で貴重な材料を多用しています。

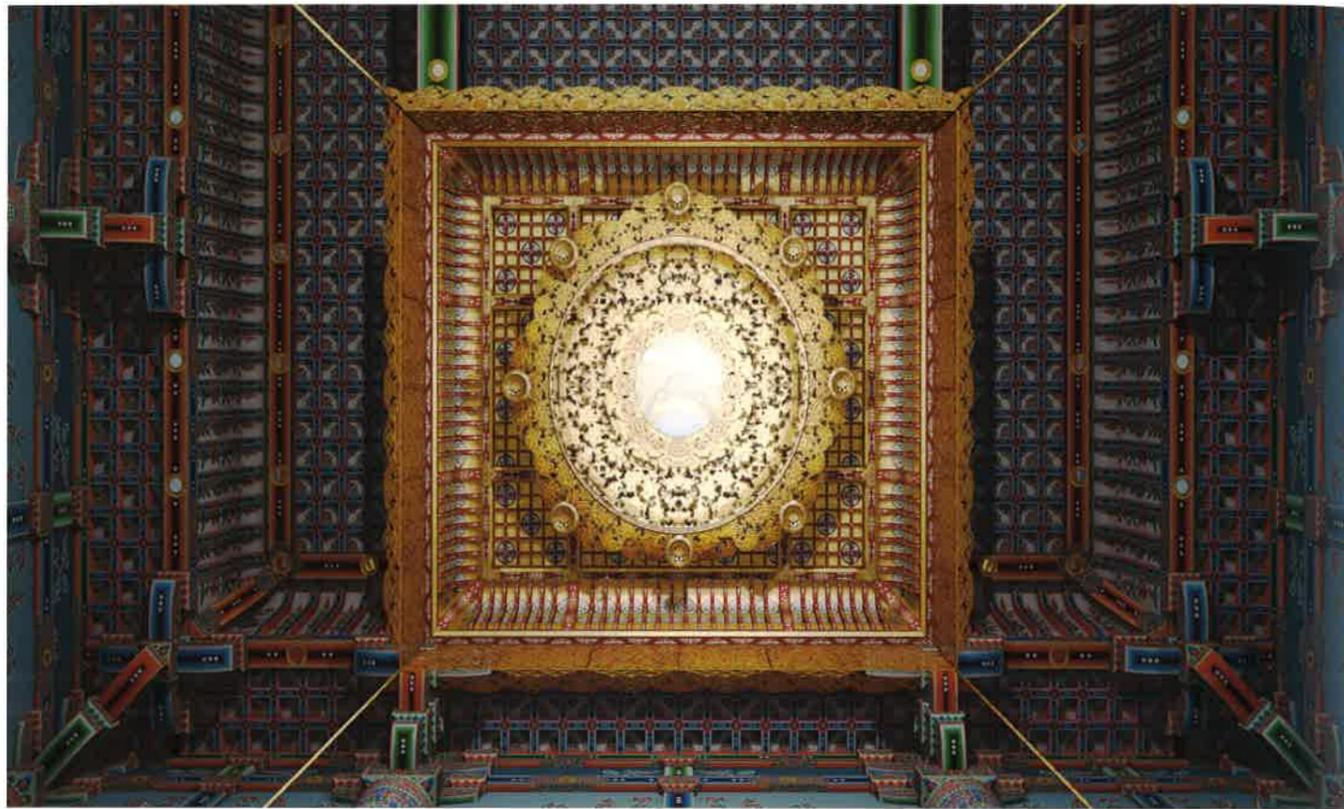


中堂内部南東面(格子つき)

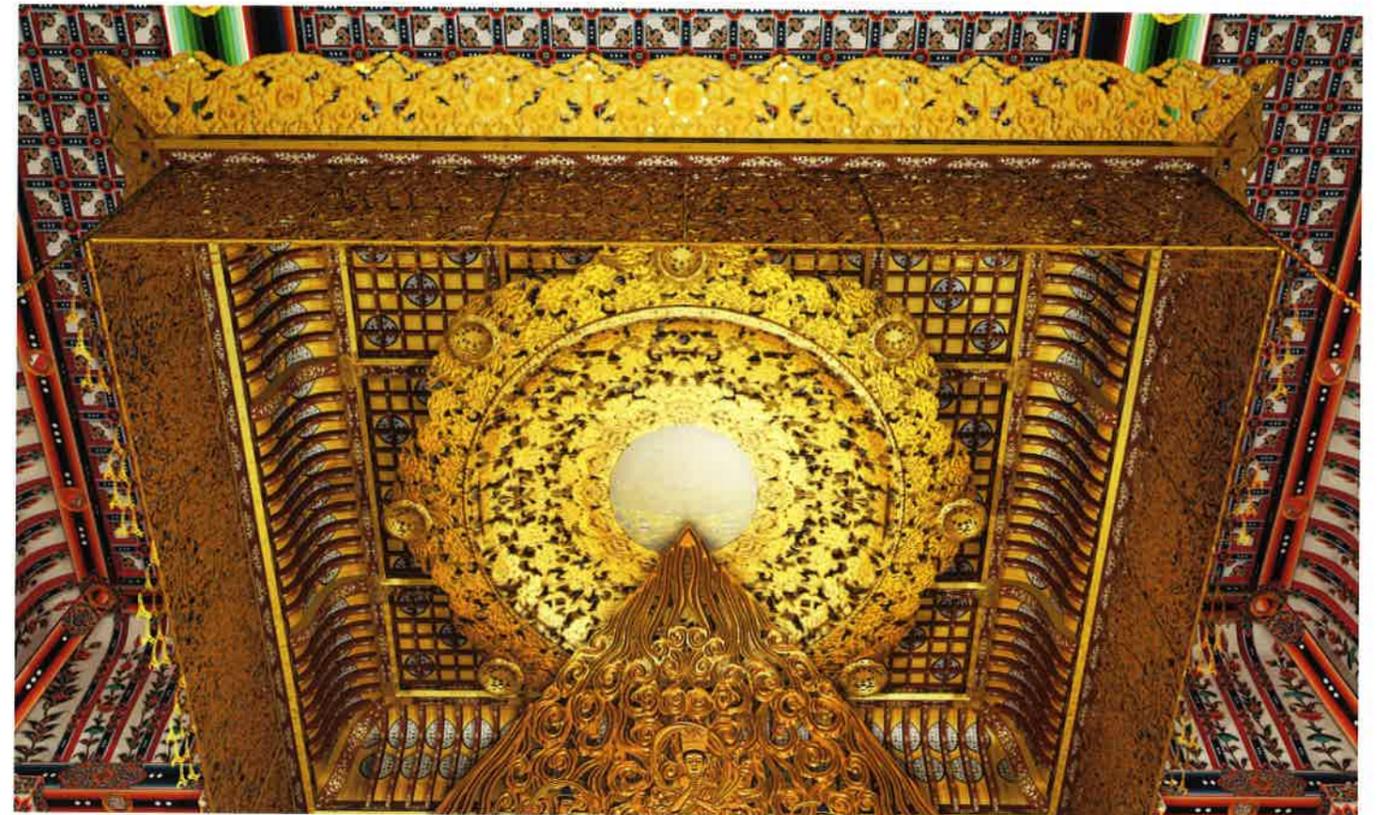
須弥壇や天蓋、扉口の格子の内側には螺鈿がはめ込まれ、天井には合計六十六個の銅製鏡が取り付けられています。そして、瓔珞などの吊り飾りにも螺鈿が使われていました。わずかな灯りで、堂内は虹色にひかり輝いたことでしょう。螺鈿は大変手間と費用のかかる技法で、建物内部全体を覆う大々的な装飾は平等院が初めてで、これ以後、これほど華麗な美術工芸品で構成された空間は二度と作られることはありませんでした。



阿弥陀如来像二重天蓋 方蓋と垂板と天蓋支輪、帶金具



格天井と方蓋と円形花蓋



阿弥陀如来像光背先端と二重天蓋



天蓋見上げ(実写)



方蓋復元模造(実写・部分)

阿弥陀如来は、この四角い天蓋と須弥壇に上下を切り取られた空間の中央に位置し、台座や天蓋や光背、四周の様々な荘厳となめらかに連続しています。

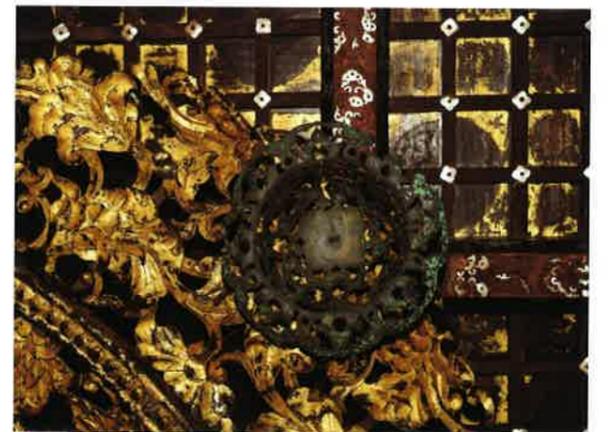
天蓋

仏の救済や説法を象徴する尊貴な傘です。

宝相華や雲文が檜材に厚さ一〜二ミリまで深く彫り込まれ、動きのある力強さと落ち着きを見せています。

この天蓋は、方形の中にさらに円形の華形天蓋が吊られるという他に類をみない二重天蓋で、蝶や華に刻まれた多くの螺鈿が嵌め込まれ、格間には金箔が押されています。

中心の八花鏡は銅(鍍錫)を磨き上げ、うつりこむ垂板の影が燃えるように立ち上がったことでしょう。



円蓋に吊り下げられる青銅垂飾(実写)





屏絵復元模写 下品上生図(左扉)部分



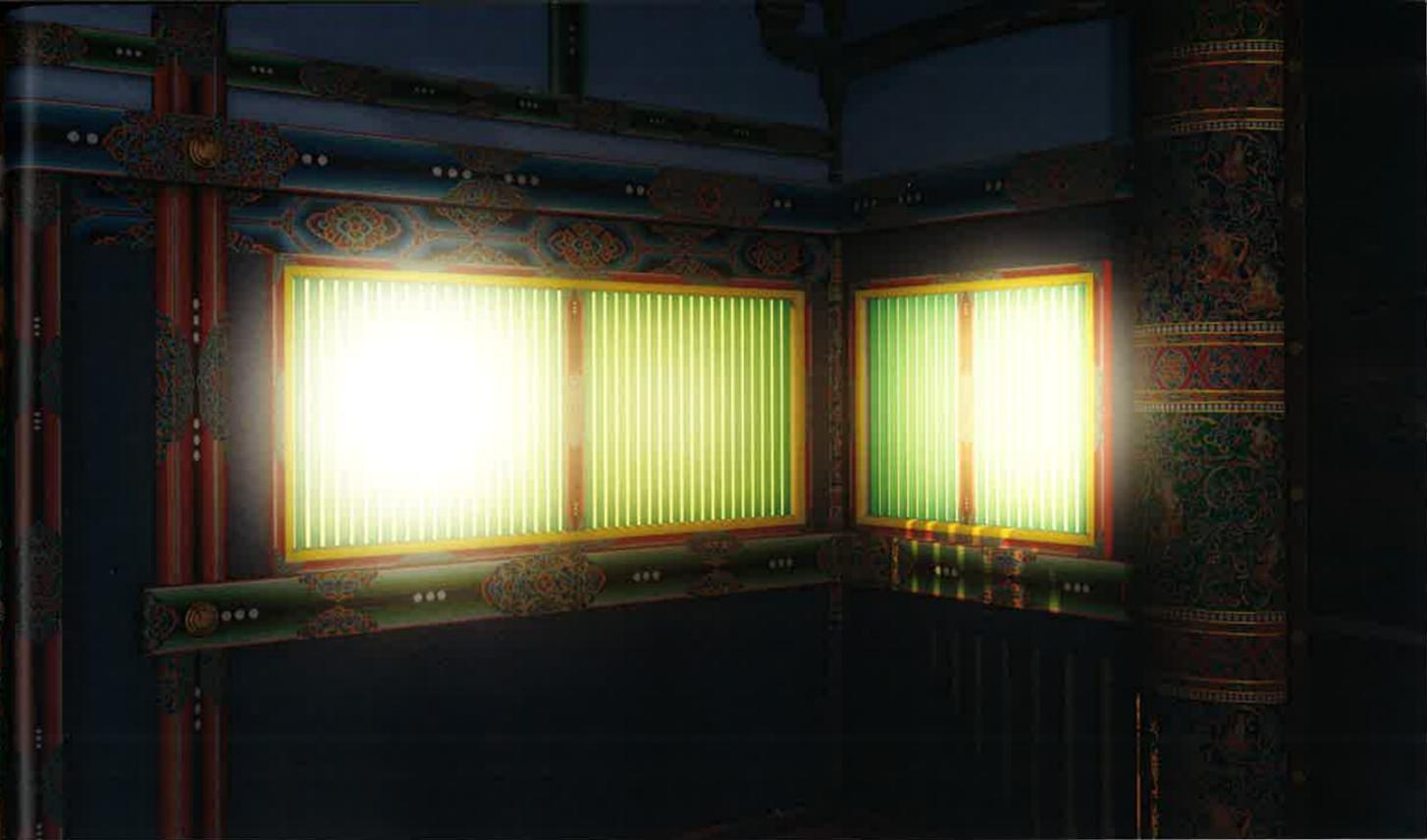
(中堂内部イメージ)



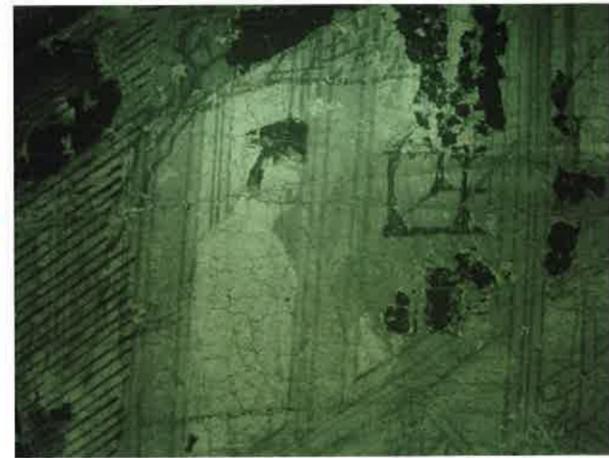
国宝屏絵 下品上生図(実写)部分



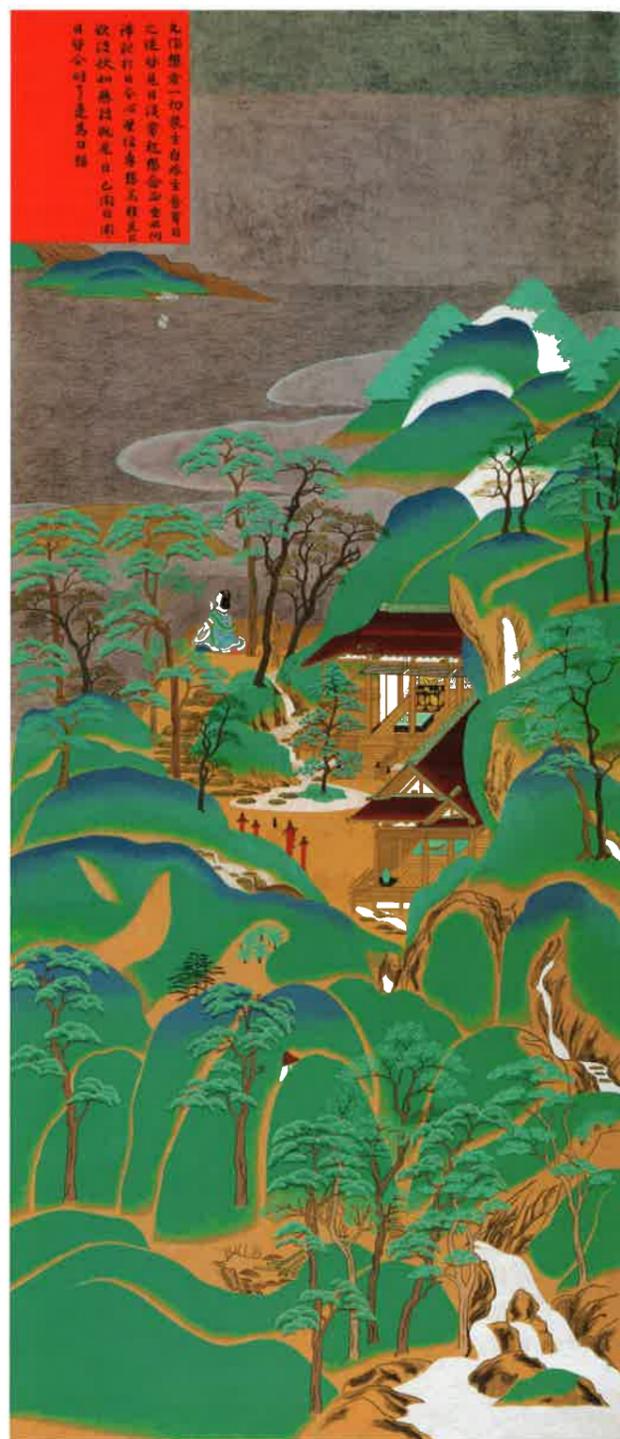
復元模写 中品中生图(北面側壁)部分



觀音勢至菩薩



中品中生图 赤外線写真



復元模写 仏後壁部分 王朝文化で最大の板壁画に日本で最小の人物像



鳳凰堂本尊の背後には、王朝文化で最も巨大な板壁画が描かれている。そこには仏の慈眼・諸人の仏を崇める視線・虚空という大画面中に三つの異なる視点が世界で最も古く描画される。その虚空部分には、顔がわずか四ミリに満たない日本最小の天人が描かれていたのである。

左 復元模写 日想観図 海に沈む夕陽を捧げる女性、滝が描かれ、いずれも、染料を大画面に惜しみなく使用している。





本尊・天蓋を移動した鳳凰堂の格天井と大虹梁支輪を見上げる



尾廊に続く西扉



左下：天蓋辻金具 中下：扉八双金具 右下：天蓋漆工・螺鈿

来迎する菩薩たち

雲中供養菩薩

鳳凰堂中堂の長押の上の小壁には五十二軀の雲中供養菩薩が懸け並べられています。この菩薩は、阿弥陀如来とともに来迎する菩薩であり、阿弥陀如来の徳を讃歎する菩薩であり、仏を信じるものを護念する菩薩でもあります。

つまり、鳳凰堂の雲中供養菩薩は、仏に対する供養と、堂内にいるものに対する供養という二重性を持ち、さらに来迎という三層構造をもっていることになりました。

五十一軀が元々の国宝で、南東にある一軀が平成二十年七月、南二十六号として新たに追加指定されました。これにより鳳凰堂の空間を構成する全てが国宝となったわけです。

復元したのは、この新国宝南二十六号です。各像はたなびく飛雲上に乗し、頭光輪光を負い、緩やかに天衣をまとっています。五軀は比丘形(僧形)で、他は菩薩形

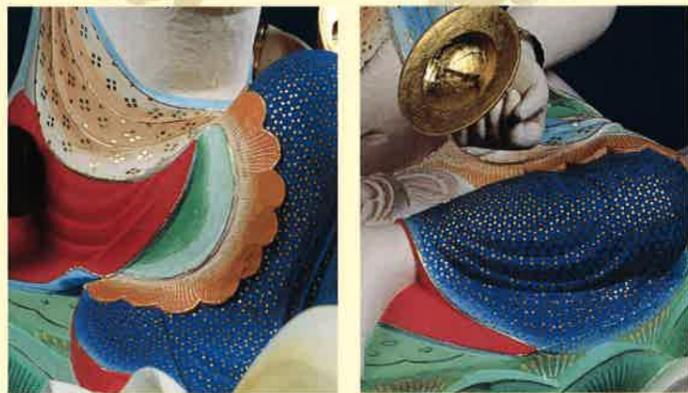
合掌、印を結ぶもの、様々な楽器を奏で、あるいは持物を執ったり、合掌したりしています。いずれも檜材で、割矧ぎの手法が多く用いられ、腕、脚などを割矧ぐ場合、像の前後に割矧ぎ、内刳りして割首する場合があります。

像の表面は、錆漆下地黒漆塗りの上に白土地彩色。截金文様で飾られ肉色という表現の肌の色をしています。なだらかでデリケートな曲線は、優しく変化に富んだ美しいラインと盛り上がり方を表現し、見事なバランス感覚による微妙な収まりと美麗さが彫り込まれています。

今回の復元には、江戸期に改変された部分を平安時代に戻す作業をともなった想定復元模刻です。原品と同様の素材、構造、造形手法により再構築したもので、最終的に亀甲つなぎ文などの截金極彩色仕上げとしています。首飾りなどの彫金も再現しました。



雲中供養菩薩想定復元模刻(南26号)



截金文様



国宝からの3次元データ：点描再現



CG復元 雲中供養菩薩 南24号



母屋 柱 内法長押下



母屋 無目 側面



母屋 柱 内法長押下 第一段 展開図



裳階 柱 内法長押下(甲文)



裳階 柱 内法長押下(乙文)



母屋 方立見付



母屋 柱 内法長押上



格子の黒漆と辻の螺鈿



(実写)



扉絵の押縁と
花菱形金具

※左右頁 復元CG



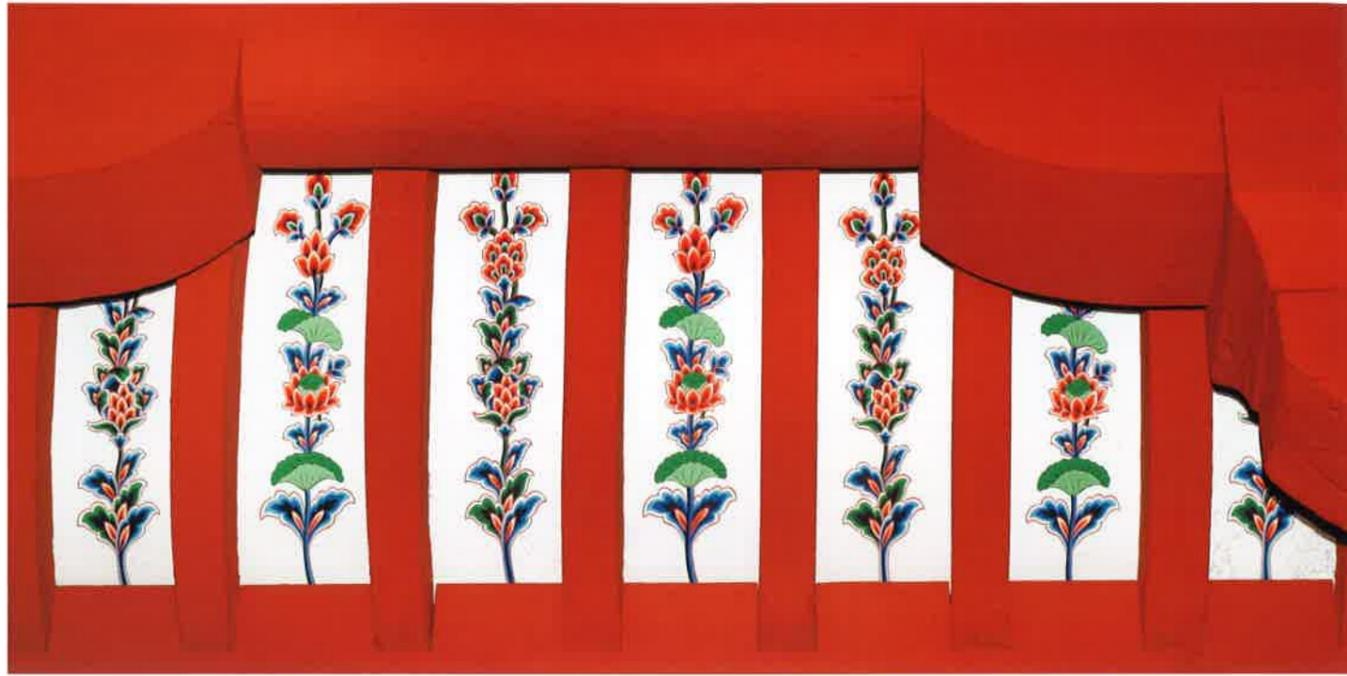
母屋 柱 内法長押下



押縁文様 鳳凰堂中堂壁板画の周囲には押縁がはめ込まれる



小壁に具備された雲中供養菩薩



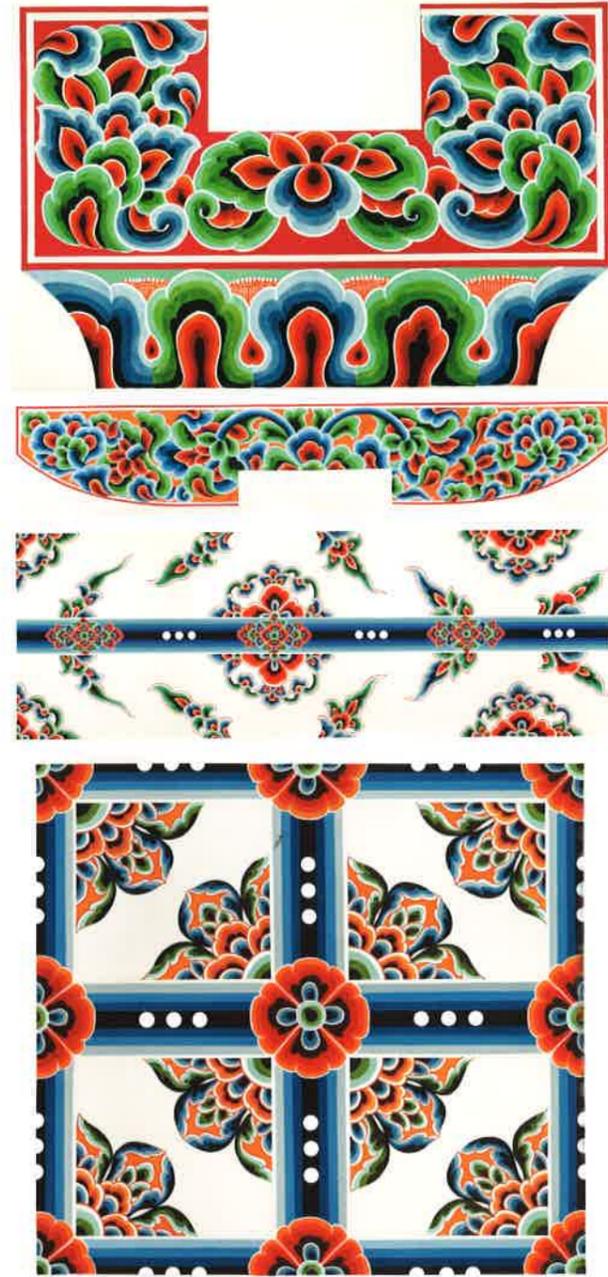
中堂外部 支輪裏板 平成修理後(実写)



翼廊楼閣棟飾 伏鉢・宝瓶・反花 平成修理復元(実写)



中堂外部 繫虹梁木口金物 平成修理後(実写)



上から：
母屋 大斗
母屋 肘木側面
裳階 化粧天井垂木および化粧天井裏板
母屋 天井格縁および天井裏板



CG制作

牟田口章人(帝塚山大学教授)

明石達也 藤原宏美 西村太郎(アイネックス)

山田修(東京藝術大学講師)

NHKきんきメディアプラン

大阪芸術大学大学院 鈴木志子(現・榎さわの道玄)

村上清(仏像修復家)

荒木かおり(川面美術研究所所長)

江里佐代子(人間国宝・平成十九年逝去)

馬場良治(日本画家)

荒木恵信(金沢美術工芸大学准教授)

荒井経(東京藝術大学准教授)

狩俣公介(東京藝術大学講師)

小川光三(飛鳥園)

寿福滋

岩波書店

(株)PFU

神居文彰(平等院住職)

文・構成・写真

雲中供養菩薩復元模刻

彩色

截金

堂内彩色復元

日想観・中品中生復元模写

仏後壁復元模写

笈型復元

写真協力

平安色彩美への旅
よみがえる鳳凰堂の色彩美

二〇一四年四月二日

初版第一刷発行

二〇一五年三月二日

第二刷改訂

二〇一六年四月二十一日

第三刷改訂

編集 神居文彰

発行者 平等院ミュージアム鳳翔館

〒六一一〇〇二一 宇治市宇治蓮華一六

電話 〇七七四(二一)二八六一

FAX 〇七七四(二〇)六六〇七

<http://www.byodoin.or.jp/>

印刷

グラフ株式会社

藤花

茶房

TOKA



当店専属日本茶インストラクターが
こだわり抜いて作り上げた「平等院
限定ブレンド」の宇治茶は、ここで
しか味わえない逸品です。

素材の良さを存分に引き出す為、
茶葉の量・湯の温度管理・抽出方法
にこだわっています。

宇治抹茶(菓子付) 600円(税込)

- ◆営業時間 10:00am~4:00pm(L.O.)
- ◆定休日 火曜日(繁忙による変動あり)
- ◆メニュー 宇治抹茶(温・冷)
宇治玉露(温・冷)
宇治煎茶(温・冷)
当店で日本茶のみ提供しております。
- ◆場所 ミュージアム鳳翔館出口右



- 禁煙
- 飲食禁止
- 写真禁止

- 館内で撮影した写真などを営利的目的で使用することは禁止いたします。
なお、鳳凰堂内・鳳翔館内での写真撮影は禁止いたします。
- 鳳凰堂内部洋眼には別途志納金が必要です。
- 車椅子のお客様は、一部お入りいただけない場所がありますのでご了承下さい。
- 当院では建造物・文化財保護のため、境内にカメラを設置しております。

拝観時間

8:30 am ~ 5:30 pm
鳳翔館・集印所 9:00 am ~ 5:00 pm



-www.byodoin.or.jp-

〒611-0021 京都府宇治市宇治運華116 ☎(0774)21-2861

平等院

—Byodoin—



平等院

Byodoin

日本語



平等院公式音声ガイドアプリ
Byodoin Temple Audio Guide



料 金 ¥480 言語 日本語・ENGLISH・中文

鳳凰堂

Phoenix Hall

極楽浄土の宮殿をモデルにした鳳凰堂は、中堂、左右の翼廊、背後の尾廊からなる、他に例を見ない建物です。堂内には、平安時代を代表する仏師定朝の作であることが確実な現存唯一の仏像、本尊阿弥陀如来坐像をはじめ、雲中供養菩薩像52軀、9通りの来迎を画いた壁扉画など、平安時代・浄土教美術の頂点が集約されています。(現在、雲中供養菩薩像26軀は鳳翔館に展示)



阿弥陀如来坐像と二重天蓋 (国宝)



鳳翔館

Hoshokan

鳳翔館は、梵鐘、鳳凰一對、雲中供養菩薩像26軀のほか、十一面観音立像をはじめとする平等院創建以前の平安彫刻など、平等院に伝わる様々な宝物を展示する博物館です。また、鳳凰堂内部の彩色を再現した展示室や、最新のデジタル技術を用いたコンピューターグラフィックスによる映像も備えています。

エントランス・格子越しに梵鐘 (国宝)



鳳凰 (国宝)



雲中供養菩薩像26軀 (国宝)



雲中供養菩薩像 (国宝)

平等院は永承7年(1052)、関白藤原頼通によって父道長の別荘を寺院に改め創建されました。その翌年の天喜元年(1053)に阿弥陀如来を安置する阿弥陀堂が建立され、その建物が現在鳳凰堂と呼ばれている、経典に描かれる浄土の宮殿をイメージした優美で怪快な建物です。庭園は浄土式の借景庭園として史跡・名勝に指定され、現在鳳凰堂周辺の洲浜や平橋・反橋などが整備されています。

その他にも、平等院には大和絵風来迎図、梵鐘、鳳凰一對など平安時代の多くの文化財が伝えられています。特に11世紀の仏像群としては唯一伝来する、雲中供養菩薩像52軀は、いずれも雲に乗り、様々な楽器を奏で舞うなど、伸び伸びと繊細に彫り上げられています。

平等院は、「古都京都の文化財」の一つとして世界文化遺産に登録されています。

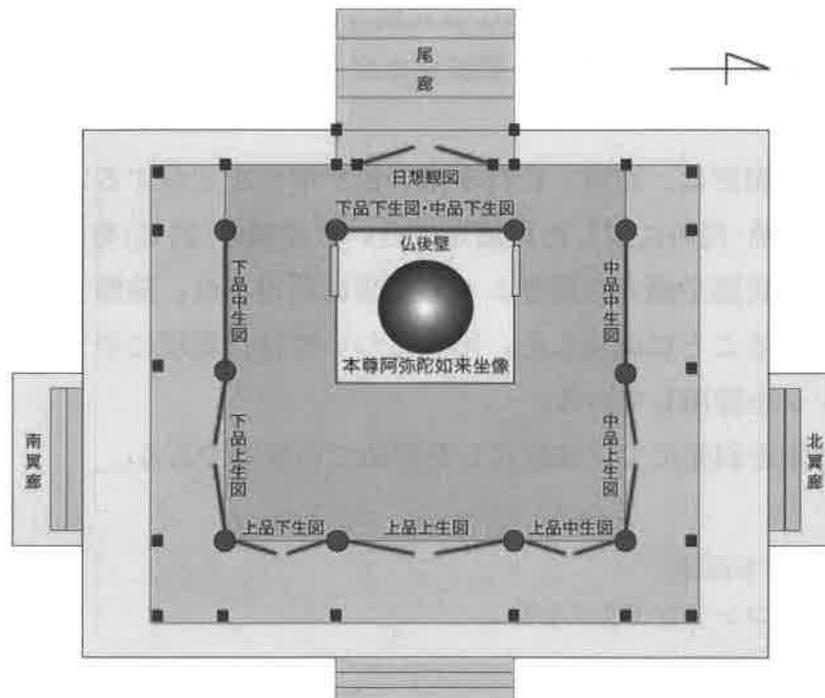


『観無量寿経』が説く九品の来迎

『観無量寿経』第14・15・16観には、人の生前の性質や行いに応じた9通りの来迎が説かれている。世俗の者について記されているのは、上品下生から下品にかけてで、下品は悪行を重ねた者であるが、善友に導かれ、「南無阿弥陀仏」と唱えることで極楽往生できるとする。来迎にあらわれる仏や台座は品により異なる。鳳凰堂の壁扉画に描かれるものは、日本の風景四季図ともいえ、それらの忠実な再現ではない。

種別	その人の性質・行い	来迎の仏など	極楽へ運ぶ台座
上品 じょうほん	上生	阿弥陀如来、観世音菩薩、勢至菩薩、無数の化仏、百千の比丘(修行僧)、声聞の大衆、無数の諸天、七宝宮殿	金剛(ダイヤモンド)の台
	中生	阿弥陀如来、観世音菩薩、勢至菩薩、無量大衆眷属、千の化仏	紫色をおびた金色の台
	下生	阿弥陀如来、観世音菩薩、勢至菩薩、諸眷属、五百の化仏	黄金の蓮華
中品 ちゅうほん	上生	阿弥陀如来、諸比丘眷属	蓮華台
	中生	阿弥陀如来、諸眷属	七宝の蓮華
	下生	(記載無し)	(記載無し)
下品 げほん	上生	化仏、化観世音菩薩、化勢至菩薩	宝石の蓮華
	中生	(天華上)化仏、化菩薩	(記載無し)
	下生	金蓮華(如日輪)	(記載無し)

参考 濱田隆『日本の美術 来迎図』至文堂 1989年、『観無量寿経』(『浄土三部経 下』岩波書店 1990年)



(鳳凰堂内配置図)

国宝 鳳凰堂扉絵(九品来迎図)復元模写

鳳凰堂内の四方の壁扉には、九品来迎図が山水風景画として描かれ、大和絵の最高峰として名高い。

昭和40年代、大気汚染等による環境悪化から扉絵の別置保存が検討され、松元道夫・川面稜一・日下八光各氏により復元模写が行われた(昭和42～46年)。これは、江戸時代に模写された田中訥言本や土佐派粉本、戦前戦後の秋山光和・山崎一雄両氏の研究がもとになっている。

この復元模写は、制作されてから数年後に8×10のポジフィルムで分割撮影されたが、すでに変色や剥落などの劣化が見られた。そこでポジフィルムの変色や損傷をデジタル上で除去した後に、プリントした画像に手彩色を行い、再びデジタル撮影によってデジタルデータ化を行う重層的な手法を使ってより精度の高い復元画像を制作した。

複製画刷新 : 東京藝術大学大学院美術研究科保存修復日本画研究室
[研究代表者:荒井経(東京藝術大学大学院准教授)]

押縁復元 : 荒木恵信(金沢美術工芸大学准教授)

鳳凰堂の堂内装飾復元

～斜光による立体復元空間～

鳳凰堂内装飾の復元にあたり、伝統的な復元模写(材質及び技法を科学的に調査研究し、可能な限り同素材同技法で復元する)とデジタルアーカイブを融合させ、全く新しい空間を作り出した。

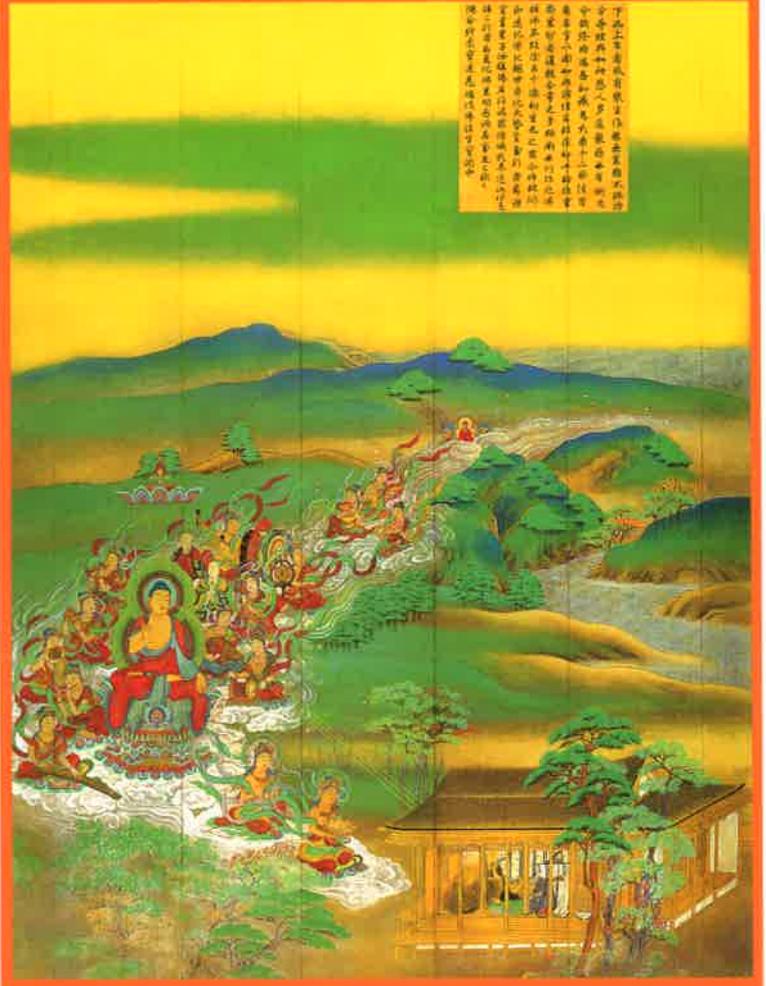
文化財のデジタル撮影は、通常、資料本来の色や形状を記録するため「順光」を基本とするが、今回は時間軸・視角に則した自然光に近い数種類の「斜光」を採用した。これにより、顔料及び染料の質感や画人の描きムラも見事に再現され、装飾文様の立体感を平面画像に浮き上がらせることに成功した。出力については、環境にやさしく耐候性に優れたラテックスインクを採用している。

現存する平安建築を斜光にて立体復元した初めての空間である。

復元模写：馬場良治(日本画家)

デジタルアーカイブ：コンテンツ株式会社

丁巳上元月廿三日
畫
今此畫中人物之多，山水之壯麗，實非他畫所能及也。其間人物之神情，山水之氣韻，皆極其生動。此畫之妙，在於其能將自然之美景與宗教之聖境，融為一體。觀者置身其中，如入神境，誠為畫中極品也。



POST CARD

•

•



•

•



平等院/極風堂摩繪 下品土生圖 (復元模写)



POST CARD



平等院 / 旧番外 (南26号) 復元模刻



POST CARD



BYODOIN MUSEUM

鳳凰堂母屋柱繪(復元)



POST CARD



BYODOIN MUSEUM

鳳凰堂母屋柱絵(復元)



1

十三重石塔：宇治公園（塔の島）。



2

天上界への橋。



3



4



5

降り（くだり）棟：隅棟が延びる。

* 宇治上神社の檜皮葺（ひわだぶき）の屋根は、降り棟が軒先迄降り、降り棟と、隅棟の間の屋根の納まりと成ったものである。



6

隅棟の勢い：一の鬼、二の鬼が、反って浮いている。



7

六角堂。



8

同上。



9



10

鳳凰堂（阿弥陀堂）の両翼廊は、壁が上方のみであり、
浮かんでいる。